CINEMASCOPE COLUMN

スクリーンの中の美容 2

TEXT／HIROMI KANAMARU
ILLUSTRATION／TOSHIKO EHARA

ショートで夢を叶えた現代のシンデレラ

髪を変えることは、こんなにも人を変化させるものなのかと思わされたのは、『ワーキング・ガール』だった。

この映画は、キャリア・ガールを扱った恋と出世の物語だが、そこには「女性の夢」というものが、現実を踏まえつつ、上手く表現されていた。いわば、これは現代のシンデレラ物語といっていい。もっともシンデレラはロングヘアだが、現代の〝シンデレラ〟はショートヘアで夢を叶えるのである。

主人公のテス（メラニー・グリフィス）は、マンハッタンのマッシュ証券会社に、スタテン・アイランドから船で通勤している。彼女は夜間の秘書養成コースを卒業しているが、キャリア・アップを目指し、証券マン養成コースに乗りたいと思っている。しかし会社では、大学出のエリートでない限り、出世はおぼつかない。

テスの存在はイントロダクションの映像で見事に表現されている。

ニューヨーク、マンハッタンの全景。それに重なる自由の女神。そして船上の彼女。テスのヘアはロングで、すごい逆毛が立ててある。まるでウルフだ。丈の短いスカートにスニーカーというのが、彼女の出勤スタイルである。

船上には仲のいい友人がいて、一緒に通勤している。同僚のシンシア（ジョーン・キューザック）である。

彼女もまたロングヘアで、すごい逆毛が立っている。このヘアスタイルに彼女たちの住んでいる地域と、彼女たちの仕事での位置が見事に表れている。シンシアのメークはテスよりもやや派手目である。そこに彼女たちの自己表現が精一杯込められているかのようだ。

テスは出勤して机に着くと素早くスニーカーを脱ぎ捨てて、ハイヒールに替える。ここには、出勤を終え仕事を始めようとするときの姿勢が見て取れるのだが、同時に、シンデレラが王子様のお妃になる夢を描きながらガラスの靴を履いて舞踏会に行ったように、仕事に臨み、出世のチャンスをつかもうとするテスの心が、とても上手く表現されていた。

仕事につくやいなや、彼女は机の前の男の上司に、いい話と悪い話があると告げられる。悪い話とは、養成コースには、彼女の学歴ではとうてい乗れないということ。いい話とは、ある部長がアシスタントを欲しがっているということである。

彼女はアシスタントを欲しがっているという部長に会いに行くのだが、その部長は彼女を軽くみていて、はなからセクハラをする。ひどく憤慨したテスは、翌日、証券会社の電光掲示板に、上司の悪口を流してしまう。このことで、人事部長に呼ばれ、配転になってしまうのだ。おまけに付き合っていた男が浮気していることが分かり、まさに踏んだりけったりだ。

オリンピア・デュカキスが演じていた、テスに配転を命じる、いかにもキャリアがありそうで、もの分かりのよさそうな女性の人事部長（彼女はちらりとしか登場しないが）はショートヘア、それもサイドにグラデーションのある、実にすっきりしたスタイルをしている。仕事も、年齢も身についているという雰囲気が、よくヘアスタイルにも表れていた。

テスは、今度は新任の部長の秘書として配属される。新任の上司はキャサリン（シガニー・ウィバー）。女性だ。しかも、年齢はテスとほとんど変わらない。彼女はスラリとした身体にピシッとスーツを着、肩までの髪にはウエーブがかかっており、いかにも行動派という感じだ。

キャサリンはテスに、何でも相談して、仕事も一緒にしましょうと、女同士の仕事であることを強調する。テスはやっと認められると喜んだのもつかの間、キャサリンが休暇でスキーに出掛け骨折して入院し、彼女の家の

『ワーキング・ガール』（WORKING GIRL）
1988年／アメリカ
監督：マイク・ニコルズ
出演：ハリソン・フォード、シガニー・ウィバー、メラニー・グリフィス、アレックス・ボールドウィン、ジョーン・キューザック、オリンピア・デュカキス
配給：フォックス・ビデオ

雑用までさせられることになる。そして、そこで彼女の留守番電話のテープを偶然聞いてしまう。そのテープには、テス自身が持ちかけたラジオ会社買収のアイデアがすっかり盗まれ、キャサリンが他の会社の人間と打ち合わせをしているありさまが録音されていたのだ。

ここから、テスはキャリア・ガールとしてというより、女としての友情が裏切られた復讐心によって大変身していく。

まず最初に、友人シンシアに手伝ってもらって、キャサリンのクロゼットから好きな服を捜し出す。キャサリンが接触している相手の男と会うためである。多くの服の中から取り出したのは、黒いワンピースだ。

「これにするわ」

「胸にリボンをつけたら?」

「シンプルでエレガントにするの。人は思うわ、自信家でリスクを恐れぬ女だと。人を視線で受け止める。知性で勝負よ」

シンシアが、何気なくワンピースについたままの値札を見てしまう。

「6000ドル！　本物の毛皮でもないのに！」

それを聞いたテスは頭がクラクラして、座り込んでしまう。そんな高い服など知らない二人は、ただただ驚いてしまったのだ。

次に手掛けるのはヘアだ。ヘアスタイル・ブックを鏡台に置いて、シンシアにテスはヘアを、ばっさり切ってもらう。

「本当にいいの?」

「キャリア・ウーマンらしく。熟女風のヘアよ」

こうして、彼女は本当に大胆にカットしてもらい、ショートヘアになる。

ここでなぜ美容室に行かないのかという疑問が頭をもたげるが、おそらく、テスもシンシアも、自分たちでヘアを整えるのが習慣であって、普段はほとんど美容室には行っていないに違いない。逆に言うと、そのぐらい時間的にも経済的にもゆとりがないとも言えるかも知れない。

ヘアスタイルが変わり、テスの本当の戦いが始まる。

テスはパーティに出掛け、キャサリンの交渉相手のジャック（ハリソン・フォード）と知り合いになるが、それだけでなく、かなり酔ってつぶれてしまい、彼のアパートで一夜を明かしてしまう。ジャックとの交渉はこのような出会いから始まった。

テスのヘアスタイルは少なくとも6タイプ登場する。

最初のロングヘア、キャサリンがいなくなったときの後ろを三つ編みにしたスタイル、ばっさり切ったショート、ジャックとの接触が成功して、相手との会社の交渉に臨むときの夜会巻き、シンシアの結婚式のときの花をあしらって結ったシニヨン、最後の髪を後ろにかきあげたオフ・ザ・フェースのスタイルである。

浮気をした彼に久し振りに会ったときの、彼の言葉が、彼女の変化を如実に表していた。

「ヘア、スーツ、ブリーフ・ケース…いったい何事だ」

「出世したのよ」

彼女はうそぶく。

「まるで女王様だな」と彼。

そこに彼女の外観からの心の変化が見事に見て取れた。

ヘアに合わせるファッションも、もちろん面白いが、その中でも特にコートが面白い。さまざまなシーンでいくつかのコートが登場するが、後半、彼女が仕事を意識するようになって、自らが出世していくときに着るのがトレンチ・コートなのである。トレンチは、もちろん第一次世界大戦でもたらされた、戦闘のための服である。それを纏ったテスの姿からも、彼女の仕事と女としての復讐に対する決意が見て取れそうだった。

今のテクニックで満足ですか！
ハタ・チアキのメーク
少人数制徹底
直接指導

1月生募集
●ベーシックコース
（毎週火曜日/6ヶ月間）
●プロコース
（毎週火曜日/4ヶ月間）
●月曜日夜間コース
（毎週月曜日/6ヶ月間）
●ブライダルメークコース
（毎月第3月曜日）

HATA CHIAKI
MAKE-UP CONNECTION
☎03-3442-0803
〒150 東京都渋谷区広尾5-16-1
KITAMURA60KAN2F